

中学校全学年 家庭科学習指導案

授業者 T 1 教科担任
T 2 栄養教諭

1 単元名 選択 生活の課題と実践
「地場産物を活用して〇〇町がもっと好きになる！アイデア丼レシピを考えよう」

- 2 単元の目標
- ・地域の食文化や食材について理解できる。【知識・技能】
 - ・生活の中から問題を見だし、課題を設定することができる。【思考力・判断力・表現力等】
 - ・課題の解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。【学びに向かう力・人間性等】

3 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食文化や食材について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活や消費生活の中から問題を見だして課題を設定し、実践に向けた計画を考え、工夫し、実践を評価したり改善したりし、課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活や消費生活に関する課題の解決に主体的に取り組んだり、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善したりして、工夫し創造し、実践しようとしている。 ・さらによりよい生活にするために、食生活に関する新たな課題を見つけ、家庭や地域で次の実践に取り組もうとしている。

4 単元と生徒

(1) 〇〇町学校保健委員会の取組

〇〇町学校保健委員会食育推進部では、アイデアレシピの募集を毎年行ってきたが、応募数は年々減少傾向にあった。令和5年度の運営委員会にて、「〇〇町のよさを子どもに伝えるよい機会なので、このまま継続してほしい。」「応募数を増やせるよう取り組んでほしい。」という御意見をいただき、令和5年度から、家庭科を学習している小学5年生～中学3年生までを対象にアイデアレシピを考える食育授業を実施することにした。令和5年度は鍋レシピ、令和6年度は汁物レシピを募集し、今年度は丼レシピをテーマとし、児童生徒にアイデアレシピを考えてもらうこととした。一次審査は栄養教諭が地場産品目数や献立内容、アピールポイント等の視点から審査を行い、各クラス1グループ、個人応募は各校1名選出している。二次審査は各校での児童生徒・教職員による投票及び文化祭における保護者・地域の方々による投票とした。今年度も同様の活動及び審査を行うことで、子どもたちが〇〇町の食の魅力を再確認し、興味関心や郷土愛が高まるようなオリジナル丼の考案を目指したい。また、最優秀作品は12月の給食週間、優秀作品は1月の給食で提供する予定である。

(2) 単元について

本単元「生活の課題と実践」は選択必修であり、中学校3年間で6時間設定されている。食生活や消費生活の中から問題を見だして課題を設定し、問題解決的な学習や主体的・対話的で深い学びが繰り返し行えるように計画されている。今年度1学年では、夏休みの課題として選択実

習を実施している。

本来であれば現状の問題点から自分たちで課題を設定しなければならないが、子どもたちに〇〇町をより好きになってもらうため、今回は〇〇町学校保健委員会食育推進部の取組である地域の地場産物・特産品を使用した丼レシピの作成（主食・主菜もしくは汁の決定）を課題として設定することとした。昨年度までは取り入れていなかった「6つの基礎食品群分類」を新たに取り入れ、家庭科の既習内容の定着を図りたい。

（3）生徒の実態

当校は全校生徒数が40名以下の小規模校で、保育園から同じメンバーで学校生活を送っている。食べ物の好き嫌いはあるが、給食を好きな生徒は多く、食に関する指導に対しても興味・関心をもっている。今年度1学年の家庭科では、教科担当と栄養教諭が連携して食分野の学習を進めてきた。特に栄養素の働きや食事摂取基準、栄養成分表、6つの食品群等については、栄養教諭の専門性を生かし、より楽しく学べる授業を心掛けた。さらに、全学年の調理実習では、衛生に配慮した準備・後片づけの指導だけでなく、デモンストレーションや調理補助を行って栄養教諭として専門性を生かした指導を行うことができた。

また、今年度前期の学校評価生活アンケート結果から、「〇〇町の良さを1つ以上言えますか」に対して「はい」75%（昨年度後期76%）、「〇〇町が好きですか」に対して「はい」72%（昨年度後期38%）という結果であった。〇〇町では「ふるさとを愛し、意欲的に学び、自ら未来を切り拓く子ども」を目指しており、中学校では「郷土に誇りをもち、学ぶ意義、共に学ぶ喜びを実感し、主体的に学ぶ生徒」を目指している。栄養教諭として〇〇町の豊かな自然が作り出す地場産物の良さを生徒に啓発するだけでなく、〇〇町をより好きになってもらえるような授業実践に努めたい。

5 指導計画

時間	学習活動
0.2	・地産地消、地場産物の復習を行う（給食時間）
0.2	・6群分けの復習を行う（給食時間）
0.4	・郷土愛を育む丼のアイデアを考える（業間学習）
1（本時）	・グループで地場産物を取り入れた丼レシピを完成させる

6 本時の計画

（1）ねらい

グループで協力し〇〇町の地場産物を活用することを通して、〇〇町がもっと好きになるアイデア丼レシピを考えることができる。

（2）食育の視点

食に関する指導の目標					
食事の重要性	心身の健康	食品を選択する能力	感謝の心	社会性	食文化
		○			△

（3）本時の構想

本時のねらいを達成するために以下の手立てをもって指導にあたる。

①新たなアイデアを生み出すために、縦割り班でグループ活動を行う。

昨年度までは各学年でグループを組んで取り組んでいたが、小規模校ということもあり今年度は全校一斉授業に切り替えたいと考える。人数が増えることによって新たな視点や考えが生まれ、考えがより深まることを期待している。また、今までさまざまな場面でリーダーを務めてきた経験を生かし、3年生を中心とした編成とし、グループ活動の中で生徒が主体

的に考え、協力して課題に取り組むことで、新たなアイデアが生み出されると考えた。

②主体的に考える時間を確保するために、事前学習を活用する。

過去2年間、アイデアレシピ食育授業を実践してきたが、グループによっては1時間では足りず、休み時間等を使って仕上げるがあった。そこで、本時の授業を公開するにあたって、事前学習として給食時における食に関する指導を2回行うこととした。指導については復習とし、1回目に「地場産物、旬について」、2回目には「6つの基礎食品群について」の内容を各クラスで行う。

③生徒の郷土愛を育むため、「〇〇町をもっと好きになる！」アイデアレシピを考える。

今までもアイデアレシピ授業や給食時において、学校給食で積極的に取り入れている地場産物や特産物を紹介してきた。自然豊かな〇〇町では、さまざまな地場産物が生産されているが、生産者は高齢化が進み、学校給食で使用できる品目や量は限られているのが現状である。そこで、学校給食を通して〇〇町をもっと好きになってもらうために、前々日の予備学習では T1 と連携し、本時でアイデアレシピを考える前段階として、どんな井にしたら〇〇町をもっと好きになってもらえるのかを考える場を設けることとした。町民が好きな味付け、食材、料理、食感、温度、郷土料理、地場産物等をたくさん挙げさせ、〇〇町をもっと好きになってもらえるイメージを膨らませた。さらに、本時ではグループ内で共有することでアイデアレシピに生かし、生徒の郷土愛を高められるよう努めたい。

(4) 本時の展開

時間	○学習活動 T 主な働きかけ ・ 予想される反応	□指導上の留意点 ・ 資料 ☆ 評価
導入 2分	○本時の学習目標を知る。 T 1 前回の「基礎学力定着のための時間」では〇〇町をもっと好きになってもらうためには、どんなことに気を付けたらいいのか考えてもらいました。今日はイメージを膨らませたものから、地場産物を活用したアイデアレシピを考えましょう。	
◎ 地場産物を活用して〇〇町をもっと好きになる！アイデア井レシピを考えよう		
展開 42分	○地場産物確認クイズで前時までの復習を行う。(7分) T 2 カフートの早押しクイズで復習しましょう。 ・楽しみながら復習を行う。 ○ルールを再確認し、グループでアイデアレシピを考える。(30分) T 2 ルールはこの3つでした。 ① 地場産物を最低4つ以上使う(米を含む)。 ② 冬が旬の食材を使う。 ③ 高価な食材、アレルギー食材(くるみ・やまいも・そば)は使わない。 T 1 グループに分かれてアイデアレシピに取りかかりましょう。 ・ごはんがすすむ〇〇にしよう。	・ タブレット (カフトアプリ) ☆ 知識・技能 地場産物を理解しようとしている。【行動観察】 □ 優秀賞の特典について触れ、生徒の興味関心を高める。 ・ ルール拡大 ・ 地場産物、旬の食材拡大 ・ タブレット (ロイロノートでワークシート配付) □ 生徒間共有可とし、分担して進行するよう指導する。 □ T 1 ・ T 2 は机間指導を行う。 ☆ 態度 意見を出し合ったり、助け合

	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産物をなるべく多く使いたいな。 ・タブレットで検索してヒントを得よう。 <p>○完成したアイデアレシピを発表する。(10分)</p> <p>T 1 グループ名、料理名、地場産物数、アピールポイントを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇班は〇〇という料理を考えました。地場産物は6つ取り入れました。なるべくたくさんの地場産物を取り入れることで〇〇町の美味しいものをみなさんに伝えてもっと好きになってもらいたいです。 <p>T 2 〇〇町をもっと好きになってもらえる素敵なレシピですね。</p>	<p>ったりしようとしている。【行動観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表カード <p>☆思考・判断・表現アイデア井レシピが完成している。【ワークシート】</p>
まとめ 5分	<p>○本時の学習内容を振り返る。</p> <p>T 1 振り返りカードを入力しましょう。</p> <p>T 2 個人でチャレンジしてみたい人はロイロノートから送ってください。一次審査の結果を楽しみにしてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード (タブレット)

(5) 評価

評価基準

グループで協力し〇〇町の地場産物を活用することを通して、〇〇町がもっと好きになるアイデア井レシピを考えることができたか。

評価規準

B アイデア井レシピを考えることができる。

A アイデア井レシピを考え、完成させることができる。

※参観者には評価カードを配付し、担当する班の評価を依頼する。

7 板書計画

◎地場産物を活用して〇〇町がもっと好きになる！アイデア井レシピを考えよう

冬が旬の地場産物を復習しよう

- ・大根
- ・長ねぎ
- ・白菜
- ・にんじん
- ・じゃがいも
- ・玉ねぎ
- ・かぼちゃ
- ・キャベツ
- ・ほうれん草
- ・チンゲン菜
- ・さつまいも
- ・さといも
- ・生しいたけ

地場産物以外の旬の食べ物

- ・たら
- ・ほたて
- ・水菜
- ・ブロッコリー
- ・カリフラワー
- ・れんこん
- ・ごぼう
- ・しゅんぎく
- ・小松菜
- ・かぶ

通年使える地場産物

- ・米
- ・干しいたけ
- ・えごま
- ・みそ
- ・塩こうじ

ルール

- ①地場産物を最低4つ以上使う (米を含む)
- ②冬が旬の食材を使う
- ③高価な食材、アレルギー食材 (くるみ、やまいも、そば) は使わない

【ワークシート】

学校名		班	
学校		氏名	
料理名			
材料名 ※地場産物には赤丸をつけてください。	4人分の使用量	作り方、切り方など	
イラスト		特徴、工夫したところ、アピールポイントなど	

※料理名、材料、イラスト、アピールポイントは必ず書きましょう。
 ※材料は6つの食品群に色分けして下線を引きましょう(調味料は当てはまらないものもある)。

1群(肉、魚、卵、豆・豆製品)…赤	2群(牛乳・乳製品、小魚、海藻)…ピンク
3群(緑黄色野菜)…緑	4群(その他の野菜、果物)…黄緑
5群(穀類、いも、砂糠)…黄色	6群(油脂、種実)…オレンジ

【振り返りカード】

今日の振り返り

① 町愛を感じる井を考えることができましたか。
(丸をつけよう)

はい・どちらかといえばはい・どちらかといえばいい・いい

② 地場産物を使った井を考えてみて感じたこと

【グループワーク発表カード】

アイデア井レシピ発表カード

【発表ポイント】
 ① ○班 ② 料理名
 ③ 地場産物の数
 ④ アピールポイント

① ○班です。

② わたしたちは○○○○という井を考えました。

③ 地場産物は○つ取り入れました。

④ (例)~~~~~なところを工夫したり、なるべく多くの地場産物を取り入れたりしました。~~~~~したことによって 町をもっと好きになってもらえると思います。

【協議会記録】

(授業者より)

- ・事前学習の時間を多く取り入れたことで、子どもたちとの距離が近くなり、授業を迎える準備が十分にとれた。
 - ・本時については栄養教諭の出番としては導入のところのみとし、子どもたちの自由な発想や活動の様子を見てもらいたいという思いで授業を行った。
- △カフトでの早押しクイズで選択肢の画面表示の文字が小さく、後ろの列の生徒が見えにくかった。
- ◎活動の時間は十分とれ、どの班も完成に達することができた。
- ◎振り返りから○○町愛を感じる井を考えた生徒が多く(授業後集計したら肯定的意見 100%)、生徒は食の面から○○町の良さを再認識することができた。

〈グループ協議〉

①授業の構成について

- ◎導入での早押しクイズで子どもの興味関心を高めていてとても有効だった。ゲーム感覚で地場産や食材について確認ができ、授業に対する生徒の意欲が高まっていくのを感じた。

②事前学習について

- ◎多くの事前学習で基礎知識が十分あってスムーズに進んでいた。活動時間の確保になった。
- ◎地場産物が子どもたちの口からたくさん出ていた。献立にも取り入れられていた。

③グループ活動について

- ◎1グループ3人程度と少人数のグループで全員が作業にしっかり取り組む様子が見られた。縦割り班でも学年を超えて多くの意見が交わされていた。活発で協働的な学びになっていた。上級生がうまく下級生をリードする姿が見られた。
- ◎グループのメンバーがそれぞれの知識をいかし、相談したり、分からないことは調べたりと対話的で深い学びにつながっていた。
- ◎タブレットを活用し、生徒が楽しく積極的に学び、興味関心を高めていた。
- ◎栄養教諭が活動の際の机間巡視で、作業が進んでいない班に声かけをし、ほどよい助言をしていたこともスムーズな活動につながっていた。
- ◎発表用のカードであったり、地場産物を4つ取り入れるというルールだったり、見通しをもって活動を進めることができる工夫が多く見られた。
- ◎電子黒板を2台同時使用し、活動の手順と実際の作業中の画面を用いてのアドバイスをそれぞれ示すなどICTが効果的に活用されていた。

④生徒の振り返りより

- ◎地場産物が普段家で食べているものだった、と振り返りにあり、子どもにとってよい気付きとなった。
- ◎振り返りから、みんなが好きな味付けや好きな食材を意識して取り入れていてよかった。

⑤その他

- △「〇〇町を好きになる」という部分について、活動の中では献立と食材に生徒たちの意識が集中しており、「〇〇町を好きになるには？」という声掛けがあってもよかった。
- △献立を立てることに夢中になり、作業も分担が徹底されるあまり、「〇〇町愛」というところまで到達できなかったのではないかな。
- △献立ができた = 〇〇町が好きになった という評価でよいのか。

〈指導者より〉

- ・班活動は対話活動であった。このような活動を進めるには具体的な発問よりも、抽象的な発問の方が活動の自由度が高まり、より効果的である。
- ・指導案後半の活動で、食材から決めている班とどんな丼にするかから決めている班とあった。食材を使っているなら食材をどんな風に生かしているか、丼から決めているならどこに自分たちのアイディアがあるか、自分たちの考えがちゃんと書いてあると評価ができる。
- ・献立発表にカフェテリア方式を用いると自分たちの考えが友だちにどのように伝わっているかが、より分かるのではないかな。
- ・献立を選定するプロセスとして生徒たちに投票させる方法でもよいのではないかな。
- ・授業の中でICTが活用され効率化されていた。誰がどんなことを考えたか一覧でパッと分かり、作業中も他の班の進捗状況や過程を知ることが活動の刺激になっていた。